



R.I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2393号

事務所 静岡県三島市泉町9-8
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 前田 博利 幹事 杉崎 亮慈



広重版画より 三島 朝霧

第2465回例会

2026.8.27曇

於:米山梅吉記念館

司 会 渡邊真生君

ロータリーソング 「我等の生業」
指揮 増田厚子君

会長挨拶 会長 前田博利君

こんにちは…

本日、三島市役所、清水町役場に苗栗で行なわれる台湾交換中学生の説明を兼ねて挨拶に行き参りました。少し早いですがもう来年3月の事業が動き出しております。

8月16日に三嶋大社夏の例祭に呼ばれて会長として出席して参りました。例祭の最後に玉串拝礼をするのですが、三島西ロータリー会長藤江やすのりと呼ばれて間違われました。7月からの任期なので変更が伝わらなかったと思われるのですが、私としてはまだ藤江年度が終わってないと痛感…

いえいえ、気を引き締めて頑張ろうと思います。

本日は前田年度になりまして6回目の8月第3例会です。皆様宜しくお願い致します。

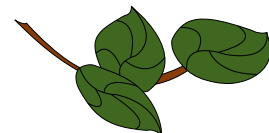
出席報告

	出席総数	出席率	メンバー	出席率
前々回	45/50	90.00%	46/50	92.00%
今回	35/47	74.47%	会員総数	54名

欠席者 赤池君、秋元君、芦川君、鏡君、窪田君、栗原(康)君、須田君、諏訪部(照)君、諏訪部(行)君、千葉君、橋本君、山田君

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 多田幸雄様(東京RC)
ビジター 細澤哲哉君(沼津RC)
大庭治美君(三島RC)
山田敏博君(三島RC)



幹事報告

幹事 杉崎亮慈君

1. 本日の卓話は、米山委員会 柴崎委員長のご担当による外部卓話です。東京ロータリークラブ所属の多田幸雄様にお越しいただいております。
2. 次回例会は、9月3日(木)12時30分より、呉竹にて北村ガバナー補佐の公式訪問となります。よろしくお願いいたします。
3. 地区大会について
10月25日(日)、静岡県武道館(藤枝市)にて地区大会が開催されます。各委員長ならびに新会員の皆様には、ぜひご参加いただきたいと思います。参加をご希望の方は、三島西ロータリークラブ公式LINE、または幹事までご一報ください。
4. 世界大会について
世界大会への参加を予定されている方は、今後、申込方法等についてご案内いたします。参加をお考えの方は、幹事までご一報ください。
5. 呉竹会長の後藤進様をご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。なお、三島西ロータリークラブからも、ご香典をお供えさせていただきました。

2026~2027年度
国際ロータリー会長
オンラインカ・ハキム・ババロア

CREATE LASTING IMPACT

卓 話

変わりゆく世界、そこにあるロータリーと米山梅吉記念館

米山梅吉記念館 副理事長
多田幸雄様(東京RC)



1.自己紹介

理系商社マン、ビジネス / アカデミック / 社会奉仕の三本柱のバランスが取れる生業を模索し50年。経営者目線から次世代育成に興味。ご縁で北大・長崎大で教鞭10年超、文科省有識者会議の座長など歴任

2.記念館の近況

ロータリーの友6月号に全面広告したが、残念ながら卓話依頼は2件。情宣が不可欠。内閣府管轄移管を機に、日本のロータリーの情報センターの基本理念のもと、全国展開を図る所存。東京支部を二重橋東商ビルに設置。情報発信にAI米山翁を活用。英語・中国語・韓国版の挨拶も整備。今秋、日本橋旧三井本館(三井住友信託銀行)に、記念館が貸与した所蔵の展示物とAI米山翁が登場予定

3.米山文庫の新企画

次世代育成支援で米山文庫のこども図書館にも注力。今夏で2回目の多言語のおはなし会。日本語と英語にフランス語を加えたら、長泉RC渡辺会員のお孫さんが飛び入り。詳細は秋季例祭で

4.東京RCの近況

記念館の活動には東京RCから継続支援を頂いている。林信秀会長は銀行マンで国際派。林会長は女性と外国人の会員増強、多様性の推進を所信表明されており、格式ある日本橋旦那衆と、革新的な国際派の両輪が協働して、新たな伝統が形成されつつある

5.新東名で運悪く交通事故

本日は予定稿を大幅に変更してお話したので、活舌が悪く大変恐縮。昨晚、東京RC例会出席で富士市の自宅からクルマで日帰り往復した帰路、長泉・沼津インター手前で交通事故に遭遇。幸い怪我もなく、交通量が少なかったため、二次災害も防げた。長泉地区分駐の高速道路交通警察隊員の親身な対応に、改めて有事の際に他人の痛みに寄り添う奉仕の精神が身に染みた

RI会長メッセージ オンラインカH.ババロラ

2026年8月

平和は偶然に訪れるものではありません。平和は、意識的に追求し、戦略的に築き、あらゆる活動に意図的に織り込んでいかなければなりません。これが、今年度に私がロータリーの世界に向けて提起したい挑戦です。

ロータリーはかねてから、平和を重点分野の一つとして位置づけてきました。しかし、平和は特定のプロジェクトのために取っておく分野だけに留めてはならないと、私は考えています。平和は、計画を立てるとき、奉仕するとき、そして「どのようなインパクトを残したいのか」と自問するときに、常に通して見る「レンズ」でなければなりません。経済平和研究所は、「積極的平和」を支える八つの柱を提唱しています。それは、「機能する政府」、「健全なビジネス環境」、「資源の公平な分配」、「他者の権利の尊重」、「近隣諸国との良好な関係」、「情報の自由な流通」、「高水準の人的資本」、そして「低い汚職水準」です。これらの柱は、持続可能な平和を実現するために必要な条件を示しています。これらを注意深く見つめるとき、ロータリーのやり知れない可能性が見えます。私たちの活動は自動的に平和を推進するわけではなく、意図的に取り組んでこそ、それを実現できるからです。

「意図的」であること、これがキーワードです。

水プロジェクトだけでは平和は築かれません。しかし、「積極的平和の柱」を念頭に置き、「資源への公平なアクセスが地域社会の信頼をどのように高めるか」を考えながらプロジェクトを設計すれば、平和の基盤づくりを始めることができます。職業研修プログラムも、和解を保証するものではありません。しかし、分断された地域社会の人びとが、共通の経済的機会を通じて協力できるよう意図的に設計されたプログラムであれば、和解への第一歩となります。変化をもたらすのは、プロジェクトそのものではなく、そこにある「意図」です。コロンビアにおけるロータリーの「平和と繁栄への道」プログラムが、その一例を示しています。このプログラムは、長年の武力紛争や避難生活の影響を受けてきた地域社会で、経済的自立支援と紛争解決研修、地域主導の和解活動を組み合わせています。そこで平和は副次的な成果ではなく、プログラム設計の中心に据えられています。この基準を私たち全員が守ること、それが私からの願いです。

次のプロジェクトを計画するとき、その重点分野が何であれ、立ち止まって次の問いを自らに投げかけてください。「この取り組みは、平和を実現するための条件をどのように生み出すか」。積極的平和の柱を参照し、自分たちの活動との接点を見つけてください。そして、そのつながりを意図的なものにしてください。発見したことをクラブや地区、そして地域社会と共有してください。平和を「到達点」ではなく「実践」として語りあうようになれば、私たちのあらゆる行動が平和に基づいたものとなるでしょう。

これは、これまでと違う活動をするということではありません。活動を、これまでとは違うやり方で、より大きな気づきと目的意識、そして私たちが築こうとしている世界への明確なビジョンをもって行うということです。ロータリーのすべてのプロジェクトは、大きな可能性を秘めています。私たちの使命は、それを偶然ではなく、自らの意思によって引き出していくことなのです。

(週報担当:勝俣辰伴)